

授業改善モデル	中学校音楽科 第3学年	3 題材の評価規準	主体的に学習に取り組む態度	
	題材名 「絵画とのつながりを感じながら、音楽の響きの変化を味わおう」 (全3時間)	知識・技能		
	学習指導要領の内容 第2学年及び第3学年 B鑑賞 (1)鑑賞ア(ア), イ(ア)(イ)	<p>知① 組曲「展覧会の絵」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。</p> <p>知② 組曲「展覧会の絵」の音楽の特徴とその背景となる絵画との関わりについて理解している。</p>	<p>思① 組曲「展覧会の絵」の音色、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。</p> <p>思② 曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p>	<p>態 組曲「展覧会の絵」の音楽の特徴と絵画との関わり及び曲想と音楽の構造の違いによる音楽が生み出す雰囲気や表情などの変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

本資料は、P D C Aサイクルを意識した授業改善について、授業改善の鍵となるCheck（評価）の段階とAction（改善）の段階に焦点を当て、その具体を授業改善モデルとして提案しています。本題材での学習活動の一部を取り上げ、Check（評価）とAction（改善）の段階を通して、見取った生徒の学びを踏まえ、次の指導や学習活動等の改善に生かすために考えられる手立てについてまとめました。

題材について



1 目指す生徒の姿

- 音楽を形づくっている要素に着目して聴くことで、曲想と音楽の構造との関わりを理解することができるようにしたい！
- 音楽を聴いて知覚・感受したことを基に、音楽と絵画とのつながりについて自分の考えを表現できるようにしたい！
- 題材を通して、楽しく鑑賞の学習に取り組むことができるようにしたい！



2 題材の目標

- (1) 組曲「展覧会の絵」の曲想と音楽の構造との関わり及び音楽の特徴とその背景となる絵画との関わりについて理解する。
- (2) 組曲「展覧会の絵」の音色、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。
- (3) 組曲「展覧会の絵」の音楽の特徴と絵画との関わり及び曲想と音楽の構造の違いによる音楽が生み出す雰囲気や表情などの変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。

授業改善につなげるために – Check と Action の段階を通して –



モデル1（比較聴取を通した学習活動）

音楽科の学習において、「比較聴取」をすることは、非常に効果的な手立てです。その際、基準とする音楽の特徴や構造を捉え、その捉えたことを基に曲想の違いや変化を捉えることができるようになります。

本題材では、第1時に同じ主題を用いた複数の「プロムナード」の比較聴取を通して、曲想の違いや変化を捉える学習を位置付けています。音色、旋律、テクスチュアなどの音楽を形づくっている要素に着目して知覚・感受し、共通点と相違点を明らかにしながら、曲想と音楽の構造との関わりについて理解することをねらいとしています。

♪ 複数の「プロムナード」の比較聴取を通して、曲想の違いや変化を捉える学習活動の一場面（例）



Checkの段階では、生徒の学びの状況を、発言、記述、音楽活動の様子から見取ります。

【冒頭の「プロムナード」から、比較聴取の基準とする音楽の特徴や構造を捉える場面】

○ワークシートの記述

- ・壮大で華やかな感じ。
- ・儀式の音楽みたい。
- ・ゆったりした感じ。 ...

○生徒の発言

きらきらとした明るい感じがします。



厳かな感じがします。



ワークシートの記述や発言の内容が、感受したことに対する傾向が見られるな…。感受したことを知覚につなげる必要があるな。

*ハイライト… Aの段階につなげる教師の振り返り



Actionの段階では、生徒の学びの状況を基に、教師の指導改善と生徒の学習改善を図ります。

【音色、旋律、テクスチュアなどの音楽を形づくっている要素の知覚を促す場面】

[問い合わせ]

「きらきらとした明るい感じ」がしたのは、「プロムナード」のどのようなところからですか。

最初の部分のトランペットの音色から感じました。

最初の部分は、トランペットを中心に金管楽器で演奏されているからだと思います。

金管楽器の音色から、「きらきらとした明るい感じ」がしたのですね。

「壮大で華やかな感じ」とも関連していると思います。

では、「厳かな感じ」がしたのは、「プロムナード」のどのようなところからですか。

独奏のような旋律から始まったところから感じました。

確かに！だんだんと旋律が重なっていくような音楽になっていました。あと、速度も比較的遅いところからも厳かな感じがしました。

[確認・価値付け]

なるほど。旋律が重なっていくような音楽の構造になっているところや、比較的遅い速度で演奏しているところからそのように感じたのですね。



【冒頭の「プロムナード」と3曲目の「プロムナード」の比較聴取を通して、曲想の違いや変化を捉える場面】

○ワークシートの記述（冒頭の「プロムナード」と比較して）

- ・華やかだけど、重厚な感じ。
- ・トランペットから演奏が始まる部分は似ている。
- ・同じような速度だけど、演奏している楽器が少ない感じがします。 ...

○生徒の発言

トランペットから演奏が始まるので華やかな感じがするけど、その後、低音楽器が旋律を演奏しているので、重厚な感じがします。



速度は同じようなので、曲想はあまり変化がないような感じがします。



冒頭の「プロムナード」で知覚・感受した音楽の特徴や構造などを基に、音色、旋律などの音楽を形づくっている要素に着目して曲想の違いや変化を捉えることができるようになっている。さらに、生徒の力を引き上げたいな。

*ハイライト… Aの段階につなげる教師の振り返り



♪ 比較聴取を通した学習活動をより充実させるために

♪ 比較聴取を改善するための教材の選択

生徒の実態や学びの状況に応じて、比較する「プロムナード」を以下の①～③の中から柔軟に選択し、構成することが考えられます。

- ① 冒頭の「プロムナード」と3曲目の「プロムナード」
- ② 冒頭の「プロムナード」と2曲目あるいは4曲目の「プロムナード」
- ③ 冒頭の「プロムナード」と2・3・4曲目の「プロムナード」

①の場合：比較的曲想が似ているため、音色、旋律、テクスチュアなどの音楽を形づくっている要素に着目しながら、共通点（類似点）と相違点を捉える聴取につなげることができます。

②の場合：対照的な曲想であるため、曲想の違いや変化を直感的に捉えることができ、音色、旋律、テクスチュアなどの音楽を形づくっている要素を手掛かりにした聴取につなげることができます。

③の場合：4曲の「プロムナード」の曲想の違いや変化を捉え、その役割や効果についても考えることができるため、絵画とのつながりについて自分の考えをまとめる学習活動への連続性が期待できます。

第2時での比較聴取も同様に、生徒の実態や学びの状況に応じて、絵画を表す複数曲から教材を選択するとよいでしょう。

大切なことは、どのような教材を選択すれば、どのような学びになるのか、という視点をもつことです。そのためには、教師が、この題材でどのような資質・能力を身につけさせたいのか、どのような生徒の姿を目指したいのか、ということを明確にもつことが必要です。



モデル2（知覚・感受したことを基に、自分の考えをまとめる学習活動）

音楽科の学習において、知覚したことと感受したことを整理して、それらがどのように関わっているのかということを結び付けて捉えることは、その後の鑑賞の学習の基盤となります。

本題材では、第2・3時に、比較聴取を通して知覚・感受したことを基に、自分の考えをまとめる学習活動を位置付けています。自分の考えとは異なる他者の考えに耳を傾けたり、他者との関わりの中から自分の価値意識を再認識したりしながら、音楽と絵画とのつながりについて自分としての考えをまとめ、深めていくことができるようになります。

♪ 知覚・感受したことを基に、自分の考えをまとめる学習活動の一場面（例）



Checkの段階では、生徒の学びの状況を、発言、記述、音楽活動の様子から見取ります。

【第2曲「古城」の聴取から、知覚・感受したことを基に、どのような音楽を形づくっている要素が曲想を生み出しているのかについて、音楽の構造との関わりから考える場面】

○ワークシートの記述

- ・旋律がゆっくりで静かな感じがして、なんとなく寂しい雰囲気の音楽だと思った。
- ・速度が遅くて、低音で演奏されているから、怖い感じがする。 ...

音楽を形づくっている要素から知覚・感受したことと曲想の記述にとどまっているようだな。もう少し、曲想と音楽の構造との関わりについて理解し、考えをもつことができるようにならない。

*ハイライト… A の段階につなげる教師の振り返り



Actionの段階では、生徒の学びの状況を基に、教師の指導改善と生徒の学習改善を図ります。

【音楽を形づくっている要素と音楽の構造との関わりについての考えを引き出すために、問い合わせする場面】

〔問い合わせ〕 旋律がゆっくりで静かな感じがして、なんとなく寂しい雰囲気の音楽だと思った。
 「旋律がゆっくりで静かな感じ」というのは、「古城」の音楽のどの部分から感じましたか。
 「古城」の最初の部分です。演奏している楽器は…。
 「古城」の最初、冒頭の部分ですね。演奏している楽器にもヒントがありそうですね。そのあと、音楽はどのようにになっていますか。もう一度「古城」を聞いて確かめてみましょう。
 もしかして、アルトサックスで演奏されていますか。最初の部分の旋律が、少し変化しているけど何度も繰り返されて演奏されています。あと、伴奏が同じようなリズムで演奏されていることに気付きました。
 〔問い合わせ〕 そう、アルトサックスです。伴奏のリズムのことについてよく気付きましたね。
 伴奏の音高の変化にも着目して聞いてみると…。
 あ！ほとんど音高の変化がなくて演奏されています。
 そうなると…。

最初の旋律が、少し変化しながら何度も繰り返されて演奏されているところから、全体的に寂しい雰囲気の音楽になっている。また、伴奏が、あまり音高の変化がなく一定のリズムで演奏されているところが静かな感じを表していると思う。



【組曲「展覧会の絵」の鑑賞を通して、曲や演奏に対する評価とその根拠を基に、音楽と絵画とのつながりについて自分の考えをまとめる場面】



これから、組曲「展覧会の絵」を鑑賞します。

鑑賞する際は、この3つの視点に着目しながら鑑賞しましょう。

○鑑賞する際の3つの視点

- ①プロムナードの役割や効果について
- ②音楽と絵画とのつながりについて
- ③作曲者の作曲に懸ける思いについて

○ワークシートの記述

・「プロムナード」は、聴いている人を音楽に引き込むような感じがした。ムソルグ斯基は、聴く人を絵の世界に連れて行きたかったのかもしれない。音色や旋律、速度の変化がたくさんあって、次の曲も聴きたくなった。「キエフの大門」のクライマックスは、迫力があり、壮大で感動した。

・「プロムナード」は、曲と曲をつなぐ役割があると思った。曲想が変わっても違和感がないのは、そのおかげかもしれない。音だけよりも絵を見ながら聴いた方が想像しやすいと感じた。ムソルグ斯基は、親友の絵に合わせて作曲できてうれしかったと思う。

これまでの学習と3つの視点を踏まえて、おおむね自分の考えをまとめて書くことができているみたい。しかし、音楽を形づくっている要素が曲想と音楽の構造にどのように関わっているのかについて、もう少し理解を深める必要があるのかもしれない。

*ハイライト… A の段階につなげる教師の振り返り



♪設定した鑑賞の視点をより意識することができるようにするための手立て

生徒の実態や学びの状況に応じて、鑑賞する際の視点を設定することは、鑑賞の学習をより充実したものとすることができます。上記のような生徒の学びの状況に対しては、以下の改善の手立てが考えられます。

- ・音楽を形づくっている要素の再確認/再提示
- ・絵画の再確認/再提示
- ・音楽と絵画とのつながりに関する問い合わせ
- ・他者の考え方と比較し、自分の考え方を再構築する活動の設定 …

こうすることで、鑑賞の活動を通して、知覚・感受したことを基に自分の考え方をまとめることができます。場合によっては、映像を伴った教材の聴取、教材の楽譜の提示なども有効な手立てとして考えられます。